

【事業紹介】

日本台湾交流協会の文化事業について

日本台湾交流協会台北事務所 広報文化部主任 浅田雅子

台湾は日本のブランド店舗や広告が街にあふれ、音楽、美術、舞台芸術、スポーツ、エンターテインメントといった数多くの分野で日本との交流が非常に盛んです。また、台湾人の海外旅行先の第一位は日本であるなど、世界で最もよく日本を知る人々といつてよいでしょう。一方で、台湾の若い世代を中心に、日本文化にはあまり馴染みがない、触れる機会が少ないという人も少なくありません。

日本台湾交流協会台北事務所・高雄事務所では、台湾の皆様にも日本文化をより広く知っていただき、日本への理解を更に深めていただくことを目的として、日本文化紹介講座や日台文化交流事業を行っています。

今年度については、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、ほとんどの事業計画を延期・中止せざるを得ない状況となっていますが、通常は、さまざまな日本文化の専門家を講師として日本から派遣したり、台湾在住の専門家に依頼したりするなどして、台湾人向けの講座を行っています。昨年度に実施した事業をいくつかご紹介いたします。

・狂言講座 (2019年5月)

狂言師・野村太一郎氏を講師に迎え、台北事務所文化ホールや台北市内の各大学日本語学科において狂言講座を行いました。日本の伝統芸能である能狂言の歴史や用語、鑑賞の仕方についての解説のほか、参加者も一緒になって狂言の所作や発声を体験したり、講師による演目の実演を鑑賞したりと、日本でもなかなか体験できない貴重な機会となりました。



・和菓子講座 (2019年9月)

和菓子職人の伊藤郁氏と老泉翔太氏による和菓子講座を台北、高雄で行いました。味覚だけでなく視覚的な美しさも楽しむことのできる和菓子の魅力を、講師の巧みな話術と高い技術により紹介していただき、参加者も和菓子作りを体験しました。参加者からは、餡はもう少し甘さ控えめのほうが台湾人好みであること、ぜひ台湾の豊富なフルーツを題材に和菓子を作って欲しいといった台湾ならではの感想が聞かれました。講座の様子は



台湾現地メディアにも取り上げられました。(本講座の様子は「交流」2020年1月号でも紹介されています)

また、台湾においても、日本人・台湾人を問わず、茶道や華道などの日本の伝統文化を修められた多くの方が台湾での普及に尽力されていることは特筆すべきことです。特に日台間の往来がかなわない今、台湾にそうした専門家が多数いらっしゃることは大変有難いことです。

台湾では新型コロナウイルス感染状況が落ち着き、集客型イベント等もマスク着用やアルコール消毒等の対策を行いながら通常通りに行われています。そのような状況のもと、当協会の文化講座も再開するべく、台湾人華道家・余仲騏氏を講師にお迎えして華道講座を台北(8/28)・高雄(9/4)で実施しました。

余仲騏氏には昨年度12月にも当協会台北・高雄で生け花のレクチャーデモンストレーションをしていただいて好評を博しました。第二弾となる今回は、旧暦七夕(8/25)と日付が近かったため、華道全般の紹介に加えて、中国古来の七夕の伝統やそれがどのように日本で受容されていったか、現代日本における「七夕祭」の様子、池坊華道で開催される「旧七夕会」の紹介等々、「七夕」をテーマとした講座を行っていただきました。

参加者の生け花体験では、七夕から連想される夜空の天の川をイメージした青色の花材を用い、季節感を取り入れた生け花の楽しみ方を学ぶことができました。また、講師に生け花デモンストレーションを披露いただいたほか、会場にも作品を展示し、参加者は専門家の技術を目の当たりにすることができました。

参加者たちからは、訪日旅行が出来ない今、「実際に自分の手を動かして日本文化体験が出来る機会は貴重だった」「初めての華道体験、貴重な機会になった」といった声が聞かれました。

今回の講座は防疫期間中のため、定員を通常の



半分程度とし、講座中は全員マスク着用をお願いして実施いたしました。当協会では今後も新型コロナウイルス感染状況を慎重に見極めながら、比較的安全な台湾においては、実際に講師と参加者が顔を合わせて日本文化を体験できるような講座を企画していきたいと考えております。